

楓の森アップデート

学校教育目標：夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第13号

令和5年(2023年)11月29日
文責 校長 佐藤 政臣

人権月間についてパート①

人権月間(11/13~12/15)

~自分を大切に、周りの人を大切に~

12月10日は、「世界人権デー」です。第二次世界大戦後の1948年12月10日に「世界人権宣言」が国際連合総会で採択されたことを記念し、1950年の国際連合総会で、毎年12月10日を「世界人権デー」として、記念行事を行うことが決議されました。本校では、11月13日から12月15日まで人権月間として、全校一斉に人権教育に取り組んでいます。

先日(11/15)、本校で合志市人権教育推進協議会 学校教育部会 公開授業研究会があり、2年1組、4年3組、6年3組が人権学習の授業を公開し、多くの先生方が来校されました。授業で子どもたちは、周囲にある偏見や差別について、自分と重ねながら深く考えることができました。

菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」作品展(11/27~12/3)

11/27から12/3まで本校地域交流室で菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」の作品展が開催されています。一般公開日は、「12/2(土)10:00~15:00、12/3(日)10:00~14:00」です。

その作品展の様子をKKT(熊本県民テレビ)、TKU(テレビ熊本)、熊本日日新聞が取材にこられました。

「金陽会」は、1953(S28)年に、一人の看護師の呼びかけで始まった菊池恵楓園の絵画クラブです。金曜日に活動していたので「金曜会」と名付けられていましたが、太陽のように明るく活動を続けようと太陽の陽を取って「金陽会」となりました。「金陽会」は、指導してくれる先生がいたわけでもなく、メンバーそれぞれが思い思いに描いています。

ハンセン病は感染力が弱かったにも関わらず、かつては伝染病と思われ、不治の病として恐れられていました。入所者の中には家族に迷惑をかけるようにと、ふるさとから遠く離れた療養所に入っている人もたくさんいます。それでも残された家族は、地域の人々からの偏見や差別によってつらい生活を強いられてきました。「金陽会」のメンバーが描く絵画の中には、遠く離れたふるさとや家族を想って描いた作品も残されています。現

在、「金陽会」のメンバーで絵を描いている人はたった一人になりましたが、残されている絵画は900点を超えます。

この作品展を通して、ハンセン病患者の方々の生き方に学び、ハンセン病について正しく知ること、偏見や差別の解消につなげていきたいと考えます。

作品の鑑賞については、全クラスが平等に観ることができるよう時間に時間を組んで鑑賞しています。



諸注意を聞く子どもたち

会場に入ると、キュレーターの藏座江美さんから作品鑑賞についての注意事項を聞きます。

その後、藏座さんの解説を聞きながら鑑賞します。美術的に価値のある作品をキュレーターの解



絵の解説を聞く子どもたち

自分の言葉でしっかりと言うことができました。1年生の子どもから、「校長先生はどの絵が好きですか。」と聞かれたので、絵を観ながら「このピンクの花の絵とこの黄色の花の絵がきれいな配色と大胆なタッチで描かれていて好きです。」と答えました。

「私は、この絵が好き。」と自分が好きな絵について色や形などのすばらしさを説明してくれました。子どもたちと絵を見ながら贅沢な時間を過ごすことができました。



取材を受ける子ども

